しかし，実用上は，大まかに

$$\pm 2\sigma \rightarrow 95\% \quad , \quad \pm 3\sigma \rightarrow 99\%$$

として用いることがあります。

くわしく，95%，99%となるkの値は，(表８）より

$$\pm 1.96\sigma \rightarrow 95\% \quad , \quad \pm 2.58\sigma \rightarrow 99\%$$

ヒトクロ　　して　　ニコヤ　か

（図10）から，平均値mから，左右に1.96σ以上ずれた部分の割合（確率，面積）は，片側2.5％，両側合わせて５％であることがわかります。また，平均値mから，左右に2.58σ以上ずれた部分の割合（確率，面積）は，片側0.5％，両側合わせて１％であることもわかります。

また，（表８）から，

○　$k=1.65$のとき，区間（m，$m+1.65\sigma$）内には，全体のほぼ45%のものが含まれ，上側に1.65σ以上ずれた部分の割合は，５%であることがわかります。

○　$k=2.33$のとき，区間（m，$m+2.33\sigma$）内には，全体のほぼ49%のものが含まれ，上側に2.33σ以上ずれた部分の割合は，１%であることがわかります。（図11参照）

1.65　　（１%）2.33

○　○○とは　　ヒト　ニミナラウ

正規分布を当てはめた五段階相対評価の各段階のパーセントは，(図12）から得られたものです。すなわち，平均値をまたいで，１σの区間に入る38%のものを３，その右隣りの１σの区間に入る24%のものを４，それ以上の区間に入る７%のものを５としたのです。そして，左側も同じように考えて，２と１とを決めているのです。

十段階相対評価の各段階のパーセントは，平均値mから，それぞれ両側へ，幅0.5 σの区間で切っていった場合の面積（割合，確率）ですが，両端は，２σ以上ずれている区間で，幅は0.5σではありません。（図12）

これらの数値は，次のように覚えておくと便利です。